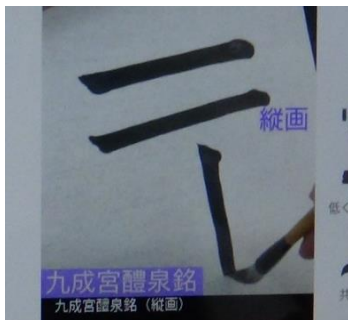


【各自で動画を確認しながら基本点画における用筆・運筆を学ぶ】



YouTubeで配信されている動画



動画を確認しながら各自で技能を高めている

活用場面

一斉学習

教師による教材の提示

個別学習

個に応じた学習

活用した機器等

Chromebook  
プロジェクター  
教材提示カメラ

活用したアプリ等

Google Classroom  
YouTube

学習のねらい

楷書の古典『九成宮醴泉銘』の特徴を捉え、それをもとに基本点画の線質などについて学び、古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身に付ける。

学習の流れ

**導入** 『九成宮醴泉銘』の「大和」という書を取り上げ、初見で「大和」を書く。その上で改めて古典の鑑賞をし、基本点画の特徴を捉える。  
教員の用筆・運筆を確認しながら、横画、縦画などについて部分練習を繰り返す。



**展開** あらかじめ教員により録画された用筆・運筆の解説動画をGoogle Classroomからたどり各自で確認しながら、練習を繰り返し、技能の向上を図る。  
学んだことをいかし、改めて「大和」の書に取り組む。



**まとめ** それぞれが書いた「大和」の書の良いところや改善点について、相互で鑑賞・批評する。  
最初に書いた作品と完成作品とを見比べて、題材を通した自らの学びについて振り返る。

ココでICTを活用！

『九成宮醴泉銘』に関する時代背景や筆者などに関する解説を、教員がプロジェクターを使って前で示しながら、生徒の興味・関心を高めるようにした。

教材提示カメラ（書画カメラ）を活用し、それぞれの点画における用筆・運筆の様子を教員が生徒全員の前で示すことにより、基本的な技能に関する指導が全員に対して行き届くようにした。

また、あらかじめ録画した確認用の動画をYouTubeにアップロードし、そのリンクをGoogle Classroomで提示しておいた。その動画を生徒が必要なときに何度でも確認できるようにしておいたことで、生徒はそれぞれの状況に応じて基本に立ち返って技能を高めることができ、教員はさらに支援が必要な生徒への対応に専念することができた。

活用のメリット、実践の工夫・振り返り等

Chromebookで動画を確認しながら各自で学びを深められるようにしたため、生徒たちが主体的に書に取り組み、理解が深まるとともに技能が向上したと考えられる。

別の題材で個別の課題に取り組ませた際にも、それぞれにあわせた動画を事前に準備しておいたことがあったが、そのときは、そうでなかった従来と比べて、特に各課題についての細かな指導が行き届き、生徒たちの全体の技能が格段に向上したと感じている。